

富山県総合デザインセンターが中心となって取り組んできた「越中富山お土産プロジェクト」10周年記念イベントを2019年10月26日、JR富山駅で開催しました。イベントでは県産食品を食べきりサイズで販売する「越中富山幸のこわけ」ブランドの新商品発表会、食と技のお土産ブランド「幸のこわけ&技のこわけミニトーク」を行いました。

越中富山お土産プロジェクト10周年記念イベント開催



### 富山を代表するお土産に

「越中富山お土産プロジェクト」は富山県総合デザインセンターが中心となり、富山県のイメージアップや良質物産の認知度向上を目的として2009年にプロジェクトをスタート。婚礼の引出物「鯛の細工かまぼこ」を近所や知人に切り分けて配り、よるこびや幸せを分かち合う、富山県ならではの伝統的習慣「おすわけ」をコンセプトに、富山の食品企業が手掛けた珍味や銘菓を統一パッケージで展開する「越中富山幸のこわけ」を2011年に発売しました。商品は「おいしさ」「富山らしさ」「オリジナリティ」「企業の対応力」「市場性」の5つの評価基準から選定。富山が誇る豊かな自然が育んだ富山ならではの特産品を活用した商品群は発売以来、消費者の高い支持を集めるヒット商品になりました。現在、商品は約30点をラインナップ。シリーズの累計売上は12億円を超え、いまや「富山のお土産」を代表するブランドの一つにまで成長しています。

### 女性の視点と感性を生かした商品開発

商品開発にあたっては、デザインセンターの企画力を活かすとともに、富山県を中心に活躍する4人の女性をプロジェクトメンバーとして加え、女性ならではの視点を積極的に取り入れながらブランド開発を進めています。「幸のこわけ」の大きな特色である「食べきりサイズ」「低価格」「贈りやすさ」をはじめ、購入者が小分けされた商品を自由に組み合わせられる

「贈る楽しさ」といった要素には、生活や流行に敏感な女性らしい視点と感性が活かされています。

また、従来の箱入り型のお土産に比べ、コンパクトで軽く、携帯性や収納しやすさにも優れた「持ち帰りやすさ」を追求したデザインであることも人気の秘密です。商品の中身や量を見せる透明フィルム等を採用したパッケージは消費者に安心感を与えるデザイン。パッケージには統一したデザインとロゴマークを採用し、多彩な参加企業の商品に一体感を持たせています。「幸のこわけ」に参加する約30社の企業は互いの垣根を越えて、まさに「オール富山」のブランドとして商品開発や販売促進に取り組みました。現在では、デザインを活用した地域ブランドの成功事例として県内外から高く評価されるほか、約80店舗の売場を通じ富山県の食の魅力を発信しています。

### 富山が育んできた技を結集

2017年には「幸のこわけ」の手法を踏襲し、金属・漆芸・和紙・硝子・木工・陶芸など富山が藩政期以来、400年にわたって育んできた技を結集した「越中富山技のこわけ」を発表。第1弾として県内企業5社、作家5名が参加して、直径12センチのお皿をそろえた「福分け皿」、続いて富山の日本酒を富山の器で楽しんでほしいというコンセプトのもと「福分け片口・ぐい呑み」、「箸置き」を続けて発表しました。シリーズは好評を博し、現在、約60アイテムの商品をラインナップしています。デザインと女性の感性を活かした「越中富山お土産プロジェクト」は今後のさらなる発展を目指します。